

朝日大学歯学部附属村上記念病院

| 患者影響レベル | |
|----------------------|--|
| | (国立大学病院医療安全管理協議会の影響度分類を一部改変) |
| レベル 0a | 間違いが実施前に発見され仮に実施されても影響は小さかった。 |
| レベル 0b | 間違いが実施前に発見され仮に実施された場合、身体への影響は大きい(生命に影響しうる)と考えられる。 |
| レベル 1 | 患者への実害はなかったが何らかの影響を与えた可能性があり、観察を継続し、心身への配慮の必要性が生じた。 |
| レベル 2 | 患者への処置や治療は行わなかったが観察の強化やバイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査等の必要性が生じた。 |
| レベル 3a | 患者への簡単な処置や治療を要した。(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与等) |
| レベル 3b | 患者への濃厚な処置や治療を要した。(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院や骨折など) |
| レベル 4a (軽度～中程度障害) | 永続的な障害や後遺症が残ったが有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。 |
| レベル 4b (中程度～高度障害) | 永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題が伴う。 |
| レベル 5 | 生命を危機的状態に陥らせる可能性が極めて高い。 死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)に至った。 |
| レベル 99 | 因果関係ははっきりしないが、患者に何らかの影響を与えた可能性がある。 職員の対応について患者・家族の不満が大きく、病院側に訴える可能性がある。 |

2013/4/1改正